

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2661 号	氏名	清野 毅俊
論文審査担当者	主査 久光 正 教授 副査 中館 俊夫 教授 副査 小風 暁 教授		
(論文審査の要旨)			
<p>呼吸困難はよく見られる症状であるが、その発生機構には不明な点が多い。清野らは、脳波双極子追跡法を用い、呼吸困難発生時の脳内活動を捉えた。対象は健常男性5名である。再呼吸バッグにてCO₂による呼吸負荷を行い、その間の脳波、換気量、呼吸困難感を測定した。CO₂負荷により換気量、呼吸困難のいずれも増加した。吸息に伴う脳電位を検出し、脳波双極子追跡法により電源を推定すると、吸息後100ms内で、左眼窩前頭葉、左上前頭回、100msから200msで左帯状回前部、300ms内に左の島と扁桃体に脳内活動電位が収束した。本結果から、呼吸困難発生時に負の情動に関与する部位などで活動が高まることが明らかとなった。</p> <p>本論文は呼吸困難の発生機構に関する新しい知見を得ており、学術上価値のあるものであり、学位論文に値すると判定した。</p>			
論文題名：			
Breathlessness-related brain activation: electroencephalogram dipole modeling analysis (息苦しさにおける脳内活動部位)			
掲載雑誌名：			
The Showa University Journal of Medical Sciences 掲載予定			

(主査が記載、500字以内)